

平成28年度鳥取県環境学術研究等振興事業

テーマ

地域創生に貢献する人材育成と地域活動の検証
～鳥取看護大学型「まちの保健室」活動の実践を通して～

研究者

田中響(鳥取看護大学) 土居裕美子(鳥取看護大学) 中川康江(鳥取看護大学) 近田敬子(鳥取看護大学)

概要

平成26年11月に公布された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、各市町村では地方創生に向けて様々な取り組みを実施している。そのような背景の中で、大学に期待される役割は、大きく「地方創生を担い支える人材の育成」と「地域社会の主体的な取組みの支援」といわれている。鳥取看護大学は、鳥取県中部に地域からのあつい要望で平成27年に開学した。「地域とともに歩む」をキーワードに、地域の活性化・健康づくりへの寄与・生涯学習の場・学生への教育の場として機能させることを目的として「まちの保健室」を展開している。鳥取看護大学における「まちの保健室」活動の実践が、「地方創生を担い支える人材の育成」として有用な活動であるかを検証するため、「まちの保健室」の場の創出と参加学生の学びについて1年目の取り組みを考える。

研究内容

鳥取看護大学の「まちの保健室」は、「地域の健康づくりへの支援」や「地方創生を担い支える人材の育成」、「地域社会の主体的な取組みの支援」として有用な活動であることを検証するために、場を創出し、そのしくみづくりを行った。具体的には、「まちの保健室」の運営や学生参加のしくみ、地域の健康づくりリーダーの参加など実践への支援を中心とした取り組みとなった。

特に鳥取看護大学で実施される拠点型・準拠点型「まちの保健室」の運営を中心に活動・調査を行った。

その結果、拠点型・準拠点型「まちの保健室」を利用した利用者数は410名で、リピーターが70%を占めていた。また、「まちの保健室」に参加した学生の延べ人数は、342名であった。

学生一人当たり平均2.2回の参加であった。参加した学生に研究調査の趣旨を説明し、同意の得られた学生1年生7名、2年生14名にインタビュー調査を実施した。

インタビュー結果を、逐語録にし、学生の思いや学びに関連する内容を文脈単位で取り出してコード化し、コードの意味内容から共通性や関連性のあるものを比較・分類しながらサブカテゴリー、カテゴリーを抽出した(表1)。

学生は、「まちの保健室」活動を通して、「まちの保健室」を利用する地域住民を理解しようと関わり、「まちの保健室」という場やその機能について考えることができていた。さらに、「まちの保健室」を地域のことが学べる場として認識し、参加することに楽しさや面白さを見出していた。その上で「まちの保健室」への新たな提案も考えていた。また、参加することで学生自身と向き合う機会にもなっていることもわかった。利用者へのインタビュー結果と合わせてさらなる分析を行いたい。

表1 「まちの保健室」に参加した学生の学び

カテゴリー	サブカテゴリー
地域を知る・学ぶ	ケアの実践
	高齢者の特性を知る
	コミュニケーションの実践
	自分と向き合う
	地域の考え方を知る
	地域の人々の思いを知る
	地域の人々の生活を知る
「まちの保健室」の利用者の理解	人との関わりを学ぶ
	役割を担う
	健康意識
	参加のきっかけ
	参加の習慣性
	地域差
	仲間意識
「まちの保健室」の機能についての理解	良さがわかると広報する
	予防への意識
	利用者の参加目的
	「まちの保健室」と病院の関わり
	健康チェックができる
「まちの保健室」の場についての理解	健康の小さな拠点としての「まちの保健室」
	対象者はすべてのライフステージの人
	地域の健康を支える
	利用者の交流の場
	イベント型は人が流れていく
「まちの保健室」への提案	運営形態による目的がある
	運営形態別に雰囲気の変化する
	ゆったり交流できる場は拠点型
	学生が参加できる
	継続の重要性
	健康づくりへの小さな拠点として提案
	広報の必要性
自分への興味	体験の必要性
	閉じこもり予防対策
	はじめての利用者への対応の提案
体験できること	利用者の待ち時間への提案
	自分の健康を知りたい
	自分のことを良く知りたい
	意欲がわく
体験できること	測定することの楽しさ
	人との関わりがうれしい
	やりがいの楽しさ

連絡先

鳥取看護大学 教授 田中 響

連絡先 Email: t_hibiki@ns.tcn.ac.jp TEL: 0858-27-2800(代)